

KTK

NO.90

後援会費郵便振替口座
01070-7-32145
あらぐさ後援会

あらぐさ通信

編集 集 あらぐさ後援会

編集協力 社会福祉法人あらぐさ福祉会

〒617-0813 京都府長岡京市井ノ内広海道42-3

TEL 075-953-9212 FAX 075-953-9215

晴天の下で 笑顔の「ひろば」



昨年の10月26日、第3回「みんなおいでよ～あらぐさひろば」(あらぐさ後援会主催)は、秋晴れの空に鳴り響く金管楽器のアンサンブルによって始まりました。

あらぐさや障がい者関係の方を初め、地域の方もたくさん集まっていただきました。

今回は10団体の協力をいただいて、音楽を聴き、

模擬店で食べたり、飲んだり、お店やバザーで買い物をし、ゲームコーナーで遊び、そして、おしゃべりをするなどワイワイと楽しく交流できました。

フィナーレは恒例となった福引き大会で、歓声と拍手に包まれ、笑顔いっぱいの「ひろば」は幕を閉じました。

人気の5本指靴下

藍染めに挑戦！

手探りからのスタート

嬉しさ、楽しさ感じて

デイセンター1のCグループは、おなじみのアクリルたわしやミニ封筒づくりに取り組んでいましたが、新しく靴下の藍染めを始めて1年が経ちました。誰もが初めての活動で、利用者さんそれぞれに合ったやり方や上手に染められるのかなど、悩みながら手探りの状態でのスタートでした。

私自身も、染色の担当職員に藍染めを習い、毎回、難しいなと感じながらも、染め上がった時の色や模様の出具合の違いに、嬉しさや楽しさを感じていました。

あらぐさでは、皆がやりやすいように、「袋染め」というやり方で取り組んでいます。「袋染め」とは、酸化防止袋の中に染料液と布を一緒に入れ、口元を専用の道具で密閉すれば、机の上でも、汚すことなく安全に染めることができます。使用しているのは、天然藍の顆粒と簡単な助剤を使って染めています。

《 藍染め おおよその工程 》

- ① 靴下をお湯で洗い、絞る
- ② 染料の入った袋に、靴下を入れる
- ③ 袋を、手やハンマーで叩く
- ④ 水洗い
- ⑤ 発色剤につけ込む

- ⑥ 洗う
- ⑦ ソーピング剤でいらぬ藍を落とす
- ⑧ 洗う



染色作業

わかりやすい作業・工程に

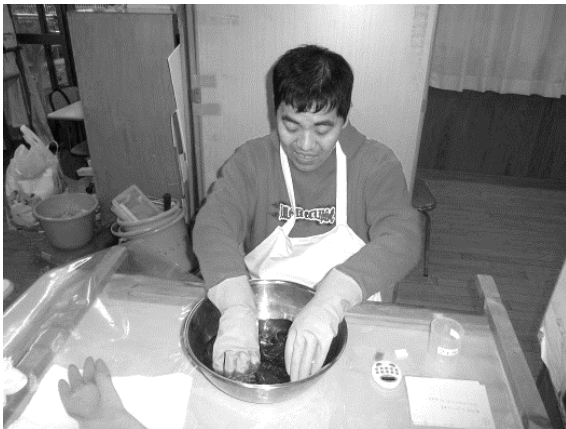
繰り返すことで上達

最初は、私と利用者さん1対1で同じ工程を繰り返し行い、まずは、基礎を身につけました。利用者さんも初めての取り組みが多く、戸惑いながらだったので、混乱することもありました。洗い場に立っての作業が続かないことや、工程がわからずに怒ってしまうこともありました。その度に、やり方や伝え方を何度も工夫していくことで、改善されることも多く、今では、洗い場に立っての作業は、職人さんのように手際がよくなりました！

靴下の絞りの工程では輪ゴムを使い、模様をつけていきます。この作業も初めてだったので、輪ゴム

を交差させることから練習し、繰り返すことで上達してきました。今では、利用者さん一人で絞りを作れる場面も増え、色々な模様を作っています。

なかでも、「ぼうし絞り」といって、絞った部分には色が入らず、白い模様ができる絞り方にも、今年度はチャレンジしています。ビニールをかぶせてから輪ゴムで止めるため、ツルツル滑りやすく難しいのですが、「一人でやってみよう」の目標に向かって、日々がんばって取り組んでいます。



発色剤につけ込み

得意なことを活かして

大事な楽しい雰囲気

染色の工程では、染料の入った袋を叩き続ける根気のいる作業がありますが、『おもちゃのチャチャチャ』などテンポのよい音楽を聴きながら、楽しい雰囲気の中で取り組んでいます。音に合わせて手でリズムをとったり、好きな曲がかかると笑顔になったり、袋に貼ってあるシールめがけてプラスチックのハンマーで叩くなど、仕事をしながらも「楽しい雰囲気」って大事だなと思いました。

前ページの工程の他にも、袋に入った状態の靴下を開けタグを切る作業や、出来上がった商品の最終チェックで、出ている糸を切ってから袋詰め作業

もあります。

たくさんの工程がありますが、利用者さんの得意なことを活かして、役割分担して取り組んでいます。

皆さんに喜んでもらえるよう

さらなる工夫を

現在、5本指靴下を中心に生産しており、以前にカタログを見て買っていた方から「また欲しい」と言っていたり、販売先で見かけられた方からの注文も入って、忙しく取り組んでいます。

藍染めに挑戦している時の利用者さんの生き生きしている姿をみると、やりがいにもつながっているようで、とても嬉しく思います。

慣れてこられた方もいれば、これからという利用者さんもおられます。私たちは、一人ひとりに合った道具や作業の仕方、伝え方などをさらに工夫をして、一生懸命に覚えようとされている利用者さんの姿に、真剣に向き合うことを大切にしていきたいと思っています。

私も、Cグループでの藍染めの活動を通して、日々新たな発見も多く、教えられることも多いです。まだまだスタートしたばかりの藍染めの活動ですが、これからどんどん定着してきていければ嬉しいです。

今後は、靴下以外にも、皆さんに喜ばれるような物を染めていけるように、皆で力を合わせてがんばっていきたくと思っています。

今後とも、どうぞよろしくお願ひします!!

(塩田 彩 記)



「へ～んしん」 — 幸せにする笑顔

難病とたたかい続けて

ゆうやさんは28歳。あらぐさに通い、ピースや染色、ニュース発行の封筒はりなどの仕事をしています。「とっても楽しい人」と職員や友達から慕われています。

言葉がでない

長期の入院生活

3歳7カ月の時に、てんかんの大発作が起き、京大病院に母子入院し、治療を続けました。大きな発作が止まらず、「パピ」「ママ」という言葉もなくなり歩行もできなくなりました。日本では十数人しかいないという難治性のてんかんと診断され、ホルモン剤の大量投与などの治療をうけました。副作用のために、食欲のコントロールができず、極度の肥満に苦しむ時期もありました。

7歳で太秦小学校に入学しましたが、すぐに病状が悪くなり再び母子入院。3ヶ月後、基本的な健康管理は家庭で行い、1週間に1度通院、他の外出は禁止という「家庭入院」の形に切り替えました。入院のたびに、4歳年上のお姉さんは、長岡京と広島の両親にみてもらうなど、家庭はたいへんな状態でした。

2学期から、お母さんが送迎して通学ができるようになりましたが、言葉が出ない状態や発達の遅れ、体力の低下などの理由で普通学級から特別学級にかわりました。

3年生の2学期に、お父さんの実家がある長岡京市に転居し長岡第七小学校に転校、4年生から、向日が丘養護学校（現支援学校）に入学しました。

ついてきた体力と生活力

向日が丘からあらぐさへ

小学部では、山に出かける活動などで徐々に体力がついていきました。

6年生になると、発作が減り、ゆうやさんの興味も外に向くようになっていきました。体調が不安で入れなかった障害児学童保育の「わっしょいクラブ」にも入ることができました。外にもよく出かけ、生活の面でも社会性が身につきました。

中学部2年生の時に1年間と高等部の時に2年間、寄宿舎に入舎しました。ゆうやさんにとっては、大きな「挑戦」でしたが、体力がつき、発作は激減して、病状はどんどん安定していきました。

生活の面でも、洗濯や服をたたむこと、身の回りの片づけなど、先生に付いてもらってできることも増えていきました。

この時期、お母さんは、広島の実家におられる両親の介護に行かなければならない時でしたので、とても助かったそうです。



あらぐさに入ってから、大発作も出なくなり、言葉もどんどん増えて、自分の思いを言葉で伝えられるようになってきました。「お笑い」大好きなゆうやさんは、「ふなっしーなっし、ビール飲みたいなっしーだめなしかー？ だめよ、だめだめ？」と、家族に笑いを振りまいています。

楽しみいっぱい

週末には「乾杯！」も

最近ゆうやさんは、あらぐさの給料と年金で、仮面ライダーの変身ベルトを買いました。仮面ライダーやウルトラマン、ゴジラなどが小さい時から好きで、たくさん買い集めて自分の部屋に飾って楽しんでます。

家では、お気に入りのCDを聴きながらテレビゲームをしています。おしゃれにも目覚め、自分で洋服を選んで買うようになりました。

休日には、劇団四季のミュージカルや宝塚の歌劇を自分から言い出してお母さんを誘って出かけます。また、ヘルパーさんと月に2回、映画やカラオケに出かけています。

愛犬メルとの交流も毎日の楽しみです。また1週間働いた週末の食事での「ビールで乾杯！」が、ゆうやさんの一番の楽しみになっています。

ショートステイも利用して

ケアホームが目標

お母さんが広島と京都におられる親御さんの介護をしなければならぬこともあって、高等部3年生の時から、ひまわり園のショートステイの利用を始めました。お母さんが忙しい生活の影響もあってか、ゆうやさんは、出血性の胃潰瘍にかかり、あらぐさを休んで家で休養することもありました。こんな時は、お母さんは、ゆうやさんを連れて広島へ出かけ



ました。

12月からは、いろどりのショートステイの利用も始めました。

今後の目標は、ケアホームに入ることです。親も子ども共にそれぞれの生活を育んでいきたいと思っておられます。

振り返って・・・

お母さんの思い

「発病した当時は、病状が悪化するばかりで、将来に希望を持たない方がいいと医師から言われ、今のような生活を送れる日がくることはないと思っていました。多くの方々への支えがあったからこそ、今があるのだと思います。」と話されます。

今は、実家のお父さんの介護をしていくことが最優先ですが、以前、民謡や三味線を高齢者の方々に教えていた時、「認知症予防や健康に役立つ」と喜んでくれたので、いつの日か、気安く通える教室を開きたいと思っておられます。また、両親の介護のために取ったヘルパーの資格を活かして、ヘルパーの仕事もしたいと思っておられます。

(取材—前田幸子・真殿尊子)



障害福祉センターあらぐさ職員

宮本 靖子 さん



グループで育てた
多肉植物とともに

あらぐさへ来て2年目。Aグループに所属しています。宮本靖子です。

私がこの仕事に就こうと思ったきっかけは短大のときに参加した障害者のお出かけボランティアサークルでした。初めてのお出かけの日、私のペアは重度の知的障害のある同い年の女性でした。土いじりが好きで、いい感じの小石や木の葉を見つけるとしゃがんで手の平でコロコロ転がしたり、眺めたり。その様子を見ていると“一緒にやろう”と靴をトントンと叩き、私の手に木の葉や小石を乗せてくれるのです。彼女の表情や仕草で、言葉が無くてもこうやってつながれるのか！と感動したのを覚えています。

保育士として働いている時もボランティアを続け、彼女と関わる中でやっぱり障害者に関わる仕事がしたい、と転職を決めました。

そして、あらぐさの職員として採用していただき、Aグループへの配属が決まりました。これまで重心

と呼ばれる人とほとんど関わったことが無く、Aグループへ決まったときは不安でした。今まで特別な勉強をしてきたわけでもなく利用者さんにどう関わったらいいのか、どう触れていいのか、職員同士の言葉の意味も分からない…と迷う場面が多々ありました。

とにかく挨拶はみんなの目を見てしよう。と決め、毎日利用者さん一人ひとりにきちんと挨拶するようにしました。1週間2週間と経つうちに、だんだんと挨拶すると目が合うことや声を出して返事してくれているのかな？と感ずることが増え、ボランティアでの感動を思い出し、やっぱりこの仕事を選んで良かったと思いました。

Aグループの一員になってもうすぐ2年。まだまだ未熟ながらも個性豊かな利用者さん、職員の皆さんと日々楽しく過ごしています。これからも視線、表情、声、色んなみんなからの発信を一つひとつ受け止めながらつながっていけたら…と思います。



あらぐさスナッフ
○花子百貨店より○

花子百貨店大好評でした！！ ありがとうございます。

毎年、バンピオの中央広場で春・秋の年2回、Hanakoさん主催の「花子百貨店」が開催されています。毎年秋の販売にパンジー・ピオラの販売をしました。

今年で3回目の出店。「去年もものすごく長持ちして、良い苗やったから、また買いにきたわ。」というリピーターの方もたくさんおられ、あらぐさのブランド苗として定着してきているなあ、と実感する年でした。

暑いウスでの土作り、細かい作業の種まき、水やり、土ポット詰め、仕分けや配達、写真撮影などなど色々ある作業を利用者さんがそれぞれの形で関わってきた苗は、自然と良い形としてでてくるんだと感じます。これからも利用者さんと楽しみながら、色々な人に喜んでいただけるような苗作りをしたいと思っています。

理事長就任にあたって

社会福祉法人あらくさ福祉会
理事長 安田 隆



このたび、西田政子前理事長の後任として、理事長に就任いたしました。

あらくさ福祉会は、長い無認可共同作業所の時代を経て平成16年9月に法人化されました。めまぐるしく変化する障害者の福祉制度や社会保障制度の改革等の中ではありましたが、さまざまな事業を進めることができました。ご支援をいただきました後援会員の皆さまをはじめ、多くの市民の皆さま方にあらためて感謝を申し上げます。さらなる発展のため、微力ではございますが力を尽くしてまいりたいと思っております。

私事ではございますが、私は、昭和23年に京都市を中心に起きた「ジフテリア予防接種事故」によ

り手足に障害をうけました。以来、学校時代の友人や職場の仲間の支えをいただくとともに、教育や福祉の現場で共に過ごした障害のある方々とそのご家族のご努力を励みにして今日を迎えることができました。理事長の重責に身の引き締まる思いでございますが、今日まで多くの方々からいただいた力を糧にして努力をしてみたいです。

障害のある方々の暮らしがより豊かなものとなるよう、あらくさの理念に掲げた思いの実現のため、一步一步前へ進んでまいりたいと思っております。

引き続きのご支援、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

法人役員、評議員の紹介 (任期 2014. 9. 11~2016. 9. 10) 敬称略

理事長 安田隆 理事 高野泰男 中西正人 永崎靖彦 野々下靖子 羽田實 山下敏夫
監事 上村義美 小坂文夫

評議員 網谷億子 植田進 荻野和雄 高野泰男 高橋徹 竹下誠 富森尚子 中川千津子 中西正人
野々下靖子 羽田實 丸岡正子 森本恒治 安田隆 山下敏夫

きょうされん国会請願署名・募金のお願い

私たちは、今年も「きょうされん第38次国会請願署名・募金」に取り組んでいます。

日本は、障害者権利条約を批准しました。障害のある人の権利、地域生活保障をするため、これから障害者権利条約の水準まで国内の障害者関連法制を充実させていくことが求められています。そのために全国からたくさんの声・署名を国会に届けることが不可欠です。

ご多忙とは存じますが、ご協力よろしくお願い申し上げます。

あらぐさ後援会 加入・募金 ありがとうございます

9月2日～12月31日 敬称略・順不同

安立美津子 阿波谷陽子 飯山秀子 池田直生 石田
充学 石堂宏宜 和泉昇 一鬼美紀 伊藤卓次 井上
健二 井上美子 井上世津子 井上治夫 今井千代子
岩本浩之 江川哲 大江潤 大江貴光 大江延佳 大
島武子 大島美砂枝 大槻昭 大橋祐子 岡田多賀子
小川ますみ 垣内悦余 梶尾捷次 勝良和子 桂武士
金澤裕希 株式会社シャーロン 株式会社ハウジング
ステーション代表取締役山下吉昭 鎌田桂子 川北幸
代 河邊文昭 岸陽子 木村忠 木村秀人 木村嘉男
京都府立高教組向日が丘支援学校分会 久保節子 窪
島敏子 河本緑 小林美恵子 子安正和 小山伸一
佐々木和隆 佐々木久子 佐名木直子 四方政則 柴
田和泉 島津絢子 嶋本芳輝 嶋本美恵 下尾医院下

尾和敏 新免富美子 鈴木ひかり 角誠一 関節子
高橋征吾 高橋明美 高橋祐子 高橋嘉子 高見純子
田中久美 田中正恭 谷早苗 谷川邦宏 谷川絹子
田村光春 土岡ひとみ 堤一彦 東宮靖武 鳥居敏江
中川政之 中川千津子 中村智江 夏原典子 西幹夫
西川茂 西城信幸 西山俊太郎 橋本さつき 長谷川
長昭 林豊子 原田正雄 ぱんだ企画 氷川千津 ビ
ューティサロンナティ岩藤由美子 平井秀子 廣岡富
美子 福井共子 別府哲 堀江幸男 前田仁 牧原幸
柵井良子 増田靖子 町田摂子 松本美津男 村田清
子 銘苅貴徳 森山正博 八木弘行 安田耕治 安松
美佐子 山口綾 山副スヘノ 山元淳子 山本利江
匿名17名

創XII

～えがおの手しごと展～

2015年

2月11日(祝) 12時～18時

2月12日(木) 9時～18時

2月13日(金) 9時～15時

展示の一例



←植木鉢



↑羊のキーホルダー

今年も長岡京市立産業文化会館で、あらぐさ作品展を開催します。毎日の活動の中
で作りました作品たちが集まる、一年に一度のイベントです。

今年のテーマは「**ガーデン**」です。入場は無料です。

ぜひ、おもしろいものを見つけに来てください。

1992年6月5日 第3種郵便物承認 (毎月1回25日発行) 2015年2月8日発行
KTK増刊通信第4247号 発行所 京都障害者団体定期発行物協会
〒602-8143 京都市上京区堀川通丸太町下ル中之町519 京都社会福祉会館4階
京都障がい連内 発行人 高谷修 頒価50円 (購読料は会費に含まれています)

KTK

あらぐさ通信

